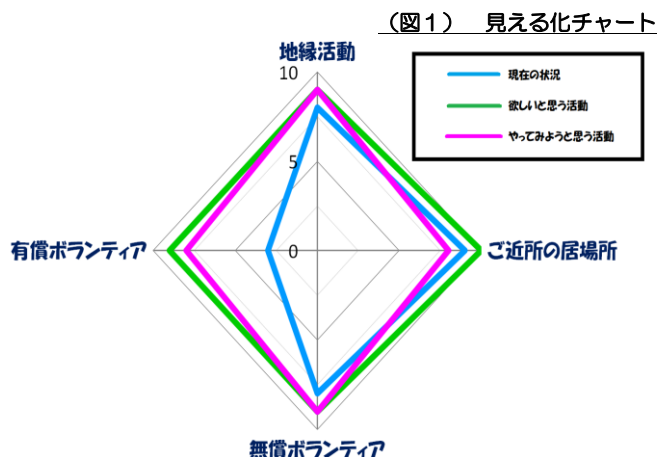


大崎市流地域包括ケアシステム市民フォーラムを開催しました

令和元年7月13日（土曜日）午後1時30分から大崎生涯学習センターにて『大崎市流地域包括ケアシステム市民フォーラム』を開催し、市内外から154人が参加しました。今回のフォーラムは共催や名義後援などさまざまな企業・団体の協力によって開催することができました。

フォーラムの内容は、民生部社会福祉課地域包括ケア推進室による行政説明「大崎市の取り組みについて」の後に、『公益財団法人 さわか福祉財団 理事長 清水肇子 氏』をお招きし、「いま、助け合いの地域をつくる時」を講演いただきました。

講演の中で「見える化チャート（図1）」を用いて「現在の状況」、「欲しいと思う活動」、「関心がある・興味のある活動」を参加者の方々と必要性があるのかを「目に見える形」としてチャート化するなど参加型のフォーラムとなりました。



そのあと行われたパネルディスカッションでは、すでに地域の課題解決（生活支援体制整備事業）に取り組んでいる市内2団体に発表をしていただきました。

「鹿島台まちづくり協議会（健やか安心委員会）」は、今までの活動を振り返るワークショップを行い、生活の困りごと解決に取り組んでいくために生活支援体制整備事業の実施を決め、コーディネーターを配置し、委員会みんなで協力体制をつくった過程と、現在取り組んでいる「既存の地域資源把握」について発表いただきました。

「池月地域づくり委員会（池月サポートセンター）」は、数年前から地域の困りごと解決のために何度もワークショップを重ね、高齢者の除雪や除草を行う住民同士の助け合い「池月を助け隊（有償ボランティア）」を立ち上げた経過と、現在その活動が家具の移動やゴミ出し等、生活の困りごとへの対応に広がっていることについて発表いただきました。

参加者からは「助け合いの必要性を実感した。」「学んだことを地域で実践したい。」などの前向きな意見をいただき、地域包括ケアシステムの理解を深めることができるフォーラムとなりました。

